

令和8年7月17日開催
調 査

経済福祉常任委員会資料

○調査事件1 ブルーベリー圃場の現状と今後の方向性について

産 業 課

調査事件 1 ブルーベリー圃場の現状と今後の方向性について

1 これまでの経緯について

町では、農業所得の向上を目的に、平成16年度から平成21年度まで6か年間、三岳地区の休耕田を活用し、ブルーベリーの試験栽培を行い、その成果をもとに、平成22年に本格栽培に向けた生産団体「福島ファーム」（代表：久野氏）が設立されております。

町では、「福島ファーム」のブルーベリーを特産品として育成したいとの意欲的な提案を受け、平成22年度から3か年計画で苗木1,500本を定植し、当団体へ貸与しております。

しかし、同団体における生産管理体制が十分に整備されなかったことや、当初計画に掲げていた観光農園やオーナー制の導入が進まなかったことなど、現時点では、当初の計画どおりに事業が進んでいない状況にあります。

なお、試験栽培を行っていた農家所有の圃場については、試験の役割を終えたことから、所有者の意向により現状のまま返還しております。

2 ブルーベリー圃場の現状について

町では、平成22年度に500本、23年度に370本、24年度に630本、計1,500本の苗木を9,266.43㎡の圃場に定植し、町が新たに制定した「果樹栽培に係る苗木の貸付及び管理運営要綱」に基づき、福島ファームへ苗木を無償で貸与しております。

しかし、土壌条件の不良や積雪による幹折れ、エゾシカの食害などが影響し、A区画及びD区画（別添図面参照）に定植された計630本はほとんど成長せず、約95%が枯死したとの報告を受けております。

また、比較的順調に成長しているB区画及びC区画においても、同様に食害や冬期間の損傷により枯死が確認されております。

その結果、現在、「福島ファーム」が管理している苗木は714本となっております。

3 福島ファームの現状と収穫状況について

「福島ファーム」の設立当初は3名の農家により生産活動が行われ、その後、5名の農家が協力者として加わり生産活動をしておりましたが、協力者の高齢化や設立当初のメンバー3名が逝去するなど、現在は代表者と近隣の

パート作業員による収穫作業が中心となっております。

収穫物については、どすこい朝市及び直売所での販売や町民への直接販売等が中心となっており、すべて町内での消費となっております。

圃場の管理については、主に代表者が一人に対応しており、剪定などの管理が十分に行き届いていない状況に加え、近年は、鳥獣被害が拡大していることも要因となり、収穫量は減少を続けております。

なお、近年の収穫状況は、次のとおりです。

(1) 収穫状況

年度	収穫量(kg)	金額(円)
R 3	461	1,383,000
R 4	305	915,000
R 5	344	1,032,000
R 6	450	1,350,000
R 7	170	510,000

※kg/3,000 円の平均金額で算出

※収穫量は生産者からの聞き取りによる

4 今後の方向性について

福島ファーム設立から16年目を迎え、本格栽培に向けた取り組み過程において、設立当初のメンバーが変更となっていることなど、管理・運営体制が脆弱となっており、生産及び管理体制は今後も厳しい状況が続くと見込まれます。

農業所得の向上という町が当初掲げた事業計画の目標達成は困難な状況であり、現状の状況を総合的に鑑み、町は、ブルーベリー圃場の生産管理を主体的に「福島ファーム」に任せることとし、今後の方向性に関しては、今年度の収穫を終えた段階で福島ファームと協議を行い、基本的な方向性として町の関与を終了することで協議を進めてまいります。

福島ファーム（ブルーベリー）植生数

